

やましんかわら版は  
山形販売店と読者を結ぶ  
ミニコミ誌です

NEW

# やましんかわら版

山形新聞は9月に創刊140周年を迎えます。

発行部数 9万7,000部

毎月5日発行

新聞休刊日のため5月6日(金)付朝刊はお休みさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



かわら版編集部

〒990-2323 山形市桜田東二丁目3-8-7  
《ホームページ》http://www.yamashinhanbai.jp/  
《メール》kawaraban@yamashinhanbai.jp  
読者お問い合わせ窓口  
TEL.023-635-6111 (山形販売内)



現在、東北芸術工科大学グラフィックデザイン学科に所属する神田瑞季さん、絵本「なみだは あふれるままに」とともに。

モンテディオ山形を  
応援しよう!!  
ホームゲーム日程

会場/NDソフトスタジアム山形

節	対戦カードと日時
第12節	5/7(土)16:00 ザスパクサツ群馬 <small>チケット販売中</small>
第14節	5/22(日)13:00 ツエーゲン金沢 <small>チケット販売中</small>
第16節	6/4(土)14:00 横浜FC <small>5/14チケット発売</small>

今月の  
いちばん  
情報!!

## 長く、多くの方に読んでほしい。 絵本という形の復興支援。

2011年に東北などを襲った東日本大震災から5年。宮城県女川町で被災した少女は大人になり、当時目の当たりにした光景から、未来に向かって希望あふれる絵本を出版しました。そのタイトルは「なみだは あふれるままに」。いつまでも読み続けられる絵本になれば、それが彼女の願いです。

### Q、絵本を出版したきっかけについて。

▶それは2011年の12月まで遡ります。東日本大震災が起きたあと、私は自身で経験した震災を題材に、一枚の絵を描いたのです。のちにその絵は女川町の震災復興絵はがきに採用されたのですが、それを見てくださった出版元の編集長が「震災を伝えるために、絵本を作らないか」と声を掛けてくださったのです。それから4年という制作期間をかけて、ひとりの少女が震災の悲しみから徐々に希望へ向かって歩み始める姿を描いた絵本「なみだは あふれるままに」を、ようやく出版することができました。震災の記憶は、時とともに風化していくものですから、時間はかかりましたがこのタイミングで出せたのが、もう一度多くの方にあの地震を思い返してもらおうと、とても良かったと感じています。

### Q、出版まで4年。とても難産でしたね。

▶当初、絵本の内容は全て、15歳だった私に任されていました。私は復興のために、また被災した方々のために自分が何かしらできるならばと、絵

と文章の両方を担当するつもりでした。しかし、何度書いても、何度描いても、復興を象徴するような明るい物語にならなかった。それでも1年くらいはひとりで作ろうとしましたが、技術的にも精神的にも、ひとりでは作りたい絵本は完成できないと思いました。そのことを出版元と話し合い、年代を問わず長く読んでいただけるように、詩の絵本を作ろうとなったのです。そのときに紹介していただいたのが、童話作家の内田麟太郎先生。先生は女川に足を運んでくださって、震災の資料や映像を熱心に取材してくださいました。1か月ほどで先生は、絵本に載せる詩を書いてくださいました。その詩は被災した人だけでなく皆んなの心に問いかけてくるような温かい内容で、私の中で固まっていたものが、溶けていく感覚を覚えました。そして、この詩に寄り添う絵を描きたいと強く思ったのです。

しかし、それでも自分の経験した震災の記憶から切り離して絵を描くことは難しく、その後も絵を描いては消し、描いては消しの繰り返し。自分自身が元気でないと、絵からは寂しさ、悲しさがにじみ出てしまう気がして、思うように筆が進みませんでした。数年の時間を掛け、ようやく描き切った後、先生から「あなたにこの絵本の主人公のようになってもらいたかった」と言葉をいただいた時は、とても温かい気持ちになりました。それはきっと私も知らないうちに、自分自身を絵本の主人公に投影していたのかも知れません。

### Q、どんな風にこの絵本を読んでほしいですか。

▶内容は東日本大震災を経験してのものではありませんが、本当に温かい絵本になっています。子どもも大人も、また、被災した人していない人に関係なくたくさんの方に読んでほしいと思います。日本は地震のほかにも自然災害が多い国ですし、それがいつ起こるかは分かりません。その意味でも、読んでもらえれば、と思うのです。先日、九州地方で熊本地震が起きましたが、被災された熊本の方々に、普段の生活が早く戻ることを祈っています。たくさんの人の心は、被災された皆さんと共にあります。



PHP研究所から発行された、「なみだは あふれるままに」。童話作家内田麟太郎さんの詩と、やわらかなタッチで描かれた絵が、絵本全体を温かな印象に。